

2022 年度 企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員長

柏 谷 誠

選考の経緯

2022 年度企業家研究フォーラム賞においては、著書の部では推薦のあった 5 作品および寄贈のあった図書 4 作品の中から審査員によって選ばれた計 8 作品、論文の部では推薦のあった 1 論文に加え、企業家研究フォーラム 18 号に掲載された 3 論文の計 4 論文、特別賞については推薦のあった 1 名の方について、2 段階の審査、3 回の審査委員会（メール審議およびオンライン審議）において、丁寧かつ慎重な審査および審議がなされ、結果として下記の受賞者を決定した。本年度の対象作品はいずれも力作で甲乙つけがたく、受賞作が著書の部・論文の部ともに 2 作品となったことを申し添えておく。（敬称略）

著書の部

田中 智晃（東京経済大学）著

『ピアノの日本史—楽器産業と消費者の形成—』

（名古屋大学出版会 2021 年 6 月 11 日）

授賞理由：本書は、高額でありかつその性能を発揮するのにレッスンという付随サービスを必要とする合成財であるピアノが日本においていかに普及し、成熟していったのかをヤマハを中心に明らかにしている。高額な合成財であるため、企業が販売金融や自社のチャネルでの付随サービスの提供とあわせて販売していったプロセスを製造工程の革新とともに長期にわたり明らかにしている。本書は経営史と経営学を架橋しており、本フォーラムの趣旨にも適合していて、受賞作品に選ばれた。

張 楓（福山大学）著

『近現代日本の地方産業集積—木工から機械へ—』

（日本経済評論社、2021 年 3 月 30 日）

授賞理由：本書は広島県における木工産地が下駄から家具へ、さらには木工産地から機械産地として、地域と産業を移しながら存続していった過程について、明治末期から 2010 年代という非常に長い期間にわたって分析したものである。在来産業を

中心とした産地の衰退がある一方で、地方に所在しつつ徐々に変容しながら存続する産地のメカニズムをダイナミックな展開をとおして明らかにした本書は、これまでの産業集積に関する研究に多くの示唆を与えるものとして貴重な成果であり、受賞作品に選ばれた。

論文の部

中西 聡（慶応義塾大学）著

「明治期日本における流通構造の変容と海運業者—野坂家と白銀家の事例—」

（『企業家研究』第18号，2021年7月10日）

授賞理由：本論文は、明治期の青森県野辺地を対象とし、汽船定期船や鉄道が普及するなかで商業・海運・地場産業がどのように変容し、企業家がそれいかに対応していったのかを野坂家と白銀家をケースとして明らかにしている。当初は帆船で北海道の魚肥と醤油原料の塩を輸送し、醤油を醸造して北海道に販売していた野坂家が、やがて醸造に集中していき、白銀家が青森・北海道間のローカルな輸送と販売に特化していったダイナミズムを史料にもとづき克明に実証しており、受賞作品に選ばれた。

森口文博（流通科学大学）・山田仁一郎（京都大学）・黒木 淳（横浜市立大学）著

「バイオベンチャーのピボット—実態と要因分析—」

（*Venture Review*, No. 36, 2020年9月15日）

授賞理由：本論文は、ベンチャーやスタートアップ企業の生き残りや成功をもたらすものとしてピボット（経営戦略の転換）が注目されている状況に鑑み、日本のバイオベンチャー148社のアンケート調査をおこない、ピボットを決定づける要因の実証分析をおこなった結果、品質管理対応ができていることと創業メンバーがCEOであることが負の影響を、外部環境の把握が正の影響を、ピボットに与えることを明らかにした。ベンチャー研究に与えるインパクトは大きく、受賞作品として高く評価された。

特別賞

金井 一頼（青森大学学長，大阪公立大学教授）

授賞理由：金井一頼先生は、長年にわたってベンチャービジネスと企業家活動について経営学の視座から研究を続けてこられ、「地域におけるソシオダイナミクス・ネットワークの形成と展開」（単著）『組織科学』32-4, pp.48-57, 1999年6月；「産

業クラスターの創造・展開と企業家活動ーサッポロ IT クラスター形成プロセスにおける企業家活動のダイナミクスー」(単著)『組織科学』38-3, pp.15-24, 2005年3月;「企業家活動と地域イノベーション」(単著)『ベンチャーレビュー』No.20, pp.3-13, 2012年9月, および『ハイテク産業を創る地域エコシステム』(共著)有斐閣, 2012年5月, など数々の成果を公刊され, 産業クラスター・エコシステムと地域活性化に関する研究で学会を牽引してこられました。また金井先生は早い時期から, 今日のSDGsにつながる戦略的社会性といった概念や社際企業家といった概念など時代を先取りする概念を多数生み出されましたが, その着眼点の確かさや慧眼は歴史が証明するところです。このように金井先生の学問的貢献は極めて大きなものがありますが, さらに大阪大学をはじめとする大学で教鞭を執られ, 青森大学では学長を務められており, さらに企業家研究フォーラムでは副会長を務められておられます。

これらの長年の企業家研究への貢献に鑑み, 特別賞をお贈りすることを審査委員全員一致で決定しました。